

日本財団補助金による

1996年度日中医学協力事業助成報告書

- 中国人研究者・医療技術者招聘助成 -

財団法人 日中医学協会

理事長 中 島 章 殿

97年3月21日

I. 招へい責任者 奥山 徹 

所属機関 明治薬科大学 職名 教授

所在地 〒154 世田谷区野沢 1-35-23 電話 3424-0496

招へい研究者氏名 匡 海 学

所属機関 中国黑龍江中薬科大学

職 名 教授

II. 日本滞在日程

1996年11月4日 日本入国

11月5日 明治薬科大学で研究の打ち合わせ; 論文博士口頭説明会準備; 実験開始: a) 黒竜江産黄耆葉のトリテルペン配糖体の構造決定(酵素、アルカリ加水分解、各種スペクトル測定と解析), b) 黒竜江産タラノ木葉のトリテルペン配糖体の単離と構造決定。

12月5日 論文博士口頭説明会

1997年1月9日 論文博士口頭発表会; 博士論文作成

2月19日 東京デズニール見学

2月24日~27日 京都府立医科大学西野輔翼教授と共同研究の打ち合わせ; 兵庫県尼崎病院東洋医学研究所見学・共同研究打ち合わせ; 広島大学薬学部総合薬学研究所山崎和男教授の教室、鈴鹿女子短期大学田中治学長、尾道市丸善製薬会社へ見学; 九州大学薬学部正山経済教授の生薬学教室へ訪問・見学。

3月4日 薬学博士学位合格; 3月17日 博士学位記授与式;

3月26~28日 第17回薬学年会出席、論文2篇発表

3月30日 帰国

III. 研究報告

日中医学協会からご助成をいただき、客員研究員の身分として明薬生薬学教室に5ヶ月間滞在し、次のように共同研究をした。

1. タラノギ葉の配糖体に関する研究

抗腫瘍活性を有するサポニン画分から単離した6種のサポニンについて、各種のスペクトルおよび化学反応の結果により、これらの構造を決定あるいは同定した。この中に4種の新規サポニンであることが明らかになった。

この画分について、さらにHPLCにより3種のサポニンと1種のフラボノイド配糖体を単離した。これらの構造は今検討中である。

2. 黄耆葉の配糖体に関する研究

膜黄耆(キバ+黄耆)の葉から単離した7種のサポニンについて、酵素加水分解、アルカリ加水分解および各種のスペクトルにより、これらの構造を決定した。この7種のサポニンはすべて新規化合物で、特に Huangqiyanin E~J と命名したサポニンは天然物に稀なB環に7員環を有するサポニンを持つ配糖体であることを明らかにした。

3. Chem. Pharm. Bull. に掲載した研究論文2篇; Natural Medicines に掲載決定した研究論文は1篇; また、日本第117回薬学会に発表した研究論文は2篇である。

4. 明治薬科大学から、薬学博士号を取得した。

5. 京都府立医科大学、鈴鹿女子短期大学、広島大学、九州大学、兵庫県尾崎病院、尾道市丸善製薬株式会社などを見学し、今後の共同研究の打ち合わせを行った。

IV. 助成金の使途内訳

助成金額 800,000 円

交通費 150,000 円 宿泊費 50,000 円 食費 300,000 円

雑費 100,000 円 他 200,000 円